

広告特集

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

姜尚中



KANG SANG-JUNG

政治学者

1950年、熊本県生まれ。早稲田大学大学院政治学専攻修士課程修了。東京大学名誉教授。主な著書に、『マックス・ウェーバーと近代』『宿む力』『朝鮮半島と日本の未来』。共著に『グローバル化の途次論』『アジアの未来』『新世界秩序と日本の未来』ほか多数。最新刊に『それでも生きていく 不安社会を読み解く知のこぼれ』。

「普遍的なるもの」を、相対化する知恵を

人物交流で描く歴史 近世を知るべき理由は

姜 先人がたどってきた歴史には、おびただしい数の侵略や戦争がある一方、交易や宗教・思想の伝播があります。そんな様々な人の「交流」を軸に歴史を描いたのが『アジア人物史』です。国の永遠の繁栄を願う君主が自身は50、60年足らずで世を去る……というような、儚さもはらんだ人の生涯から歴史を見つめたい、という思いもありました。山極さん、人間の社会というのは、ゴリラやチンパンジーのそれと根本的にどこが違うのでしょうか。

山極 ゴリラたちは一つの群れにしか所属できないのに対し、ヒトは自らの集団以外にも交流しネットワークを広げることができた。これは、ネアンデルタール人とホモ・サピエンスの違いでもあり、後者が生き残った大きな原因であると考えられます。ですが、そもそも「現代人が信頼できる人間関係の上限は150人程度」という説があるんです。つまり、上限を超えた人との交流がむしろコンフリクトを拡大している。それが人間社会だと思えます。

姜 大航海時代以降、近世の時点では、アジア全域の国内総生産はヨーロッパを凌駕してしまっています。その力関係が逆転するのが1820年以後。つまり、第7・8巻で取り上げる16〜19世紀というのは、世界史上の「地理的舞台転換」が起こった時代であり、植民地支配によってアジアの人々の生活のありようが根底から変わった時代でもある。つまり近世アジアを知ることが、その前後の時代や今日のアジアを考えるうえで欠かせないと思っています。

姜 自らの領土に無いものを求めて世界に出て行き、そのありようを変えようとする。大航海時代に端を発する植民地支配のこの発想には、ヨーロッパに底流する「禁欲的な勤勉さや労働倫理」より、むしろ「グリーデー(貪欲)」を感じてしまっている。山極 それには人的要因だけでなく、自然環境も関係しているのではないのでしょうか。亜熱帯・熱帯に属するアジアに比べて土地の収量力が低いヨーロッパの方が、領土を獲得する必要性に迫られたという側面はあるでしょうから。一方、アジアに目を向ければ、異なる宗教間の大きな



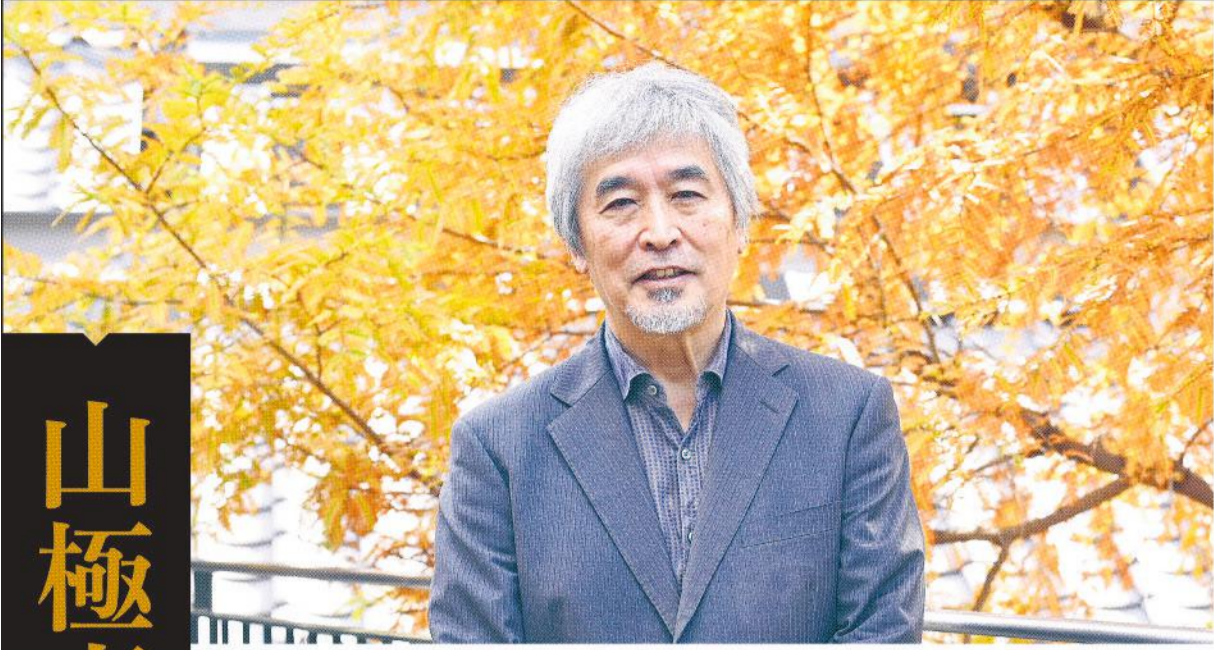
いまも世界に蔓延する「普遍性」のワナ

アジアの歴史に学ぶ 新たな世界秩序のカギ

集英社創業95周年記念企画 『アジア人物史』

記念対談

山極壽一



YAMAGIWA JUICHI

霊長類学者・人類学者

1952年、東京都生まれ。京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学。理学博士。京都大学総長、日本学術会議会長を経て、現在、総合地球環境学研究所所長。主な著書に『暴力はどこからきたか』『家族進化論』、近著に『虫とゴリラ』(共著)、『スマホを捨てたい子どもたち 野生に学ぶ「未知の時代」の生き方』ほか多数。

争いは少ないように思いますが、清やムガル帝国では、巨大な人口を抱えながら、民を食わせた国を治めていました。そうした秩序を支えてきた世界観や自然観、いわば「知恵」のようなものは、人物史をひもとくことでより鮮明になるかもしれません。

姜 今日の世界を見渡しても、自分たちが「普遍性」の申し子であり、それ以外は「異端」「特殊」であるという考えは蔓延しています。普遍的なるもの——例えば、市場万能型資本主義や宗教的原理主義——を半ば強引にあげてはめた結果、対立が激化している例は多々あります。それを相対化すること、また、それぞれの文明圏の歴史・文化の中で涵養されてきたものに重きをおくこと。それが、

山極 その通りですね。国・地域にはその土地や自然に合った暮らし・文化があり、その中でアイデンティティが育まれ、人は幸福感を得る。ICTプラットフォームのごく二元化された仕組みを押しつけても社会というのはうまくいかない。そこを忘れてはいけないと思います。

姜 この本は分厚いので、最初から全部読もうとするのは息切れしてしまうかも知れません。まずは、興味ある時代の巻、それも目次で気になった人物の箇所だけ読めばいいと思います。



「風景」を思い描き 空間の広がりを感じて

この世界は「地続き」だ 実感伴う面白さ

古代から21世紀までのアジアの歴史を、総勢1万人の登場人物を通して一望する。そんな壮大な企画が、集英社の創業95周年を機に形となった。東洋史研究の集大成ともいえる『アジア人物史』(全12巻)。本日発売の第7・8巻を皮切りに、順次刊行される。総監修を務めた姜尚中さんと、霊長類学者・人類学者の山極壽一さんの対談が実現した。

東洋史研究の集大成、堂々刊行開始!

広大なアジア領域の歴史を、人物に光を当てて完全網羅。全編書き下ろし!



集英社創業95周年記念企画 『アジア人物史』 全12巻+索引巻 [総監修] 姜尚中 [編集委員] 青山亨 伊東利勝 小松久男 重松伸司 妹尾達彦 成田龍一 古井龍介 三浦徹 村田雄二郎 李成市 [カバーイラスト] 荒木飛呂彦 第1回配本 2冊同時発売 2023年1月以降順次刊行予定 第7巻『近世の帝国の繁栄とヨーロッパ』 第8巻『アジアのかたちの完成』 全巻予約購入特典 2023年2月28日(火)までに申し込まれた方全員に 荒木飛呂彦氏(『ジョジョの奇妙な冒険』)書き下ろしカバーイラスト入り オリジナル図書カードプレゼント!